

8 校内研修全体計画及び年間計画

1 研究主題

自ら考え ともに伸びていく子どもの育成

～対話を通して、主体的に学び合う授業をつくる～

2 主題設定の理由

(1) 社会的な背景及び新学習指導要領から

「今の子供たちやこれから誕生する子供たちが、成人して社会で活躍する頃には、我が国は厳しい挑戦の時代を迎えていると予想される。」これは、新学習指導要領の冒頭の一文である。例年とは異なる形で始まった今年度のスタートを鑑みても、社会が刻々と変化していることは言うまでもないだろう。人工知能が進化し、人間が活躍できる職業も減っていくとも言われている。

このような時代を生き抜く力を育むために、新学習指導要領が全面実施されている。子どもたちが生きるために必要な資質・能力を育むため、「どのように学ぶか」という視点で、これまでの授業から、さらに、主体的・対話的で深い学びとなる授業に改善していくことが求められている。

(2) 本校の教育目標から

本校の教育目標は、「自ら考え主体的に行動できる児童の育成」である。子どもたちの生きていく変化の激しい時代では、新しい時代に必要な「資質・能力」を身に付けることが不可欠である。その「資質・能力」を身につけるためには、どのような力を育成していくことが必要となるのか。まずは、主体的に学習に取り組む態度が重要である。そして、課題についてどうすればよりよく解決できるのか考える力（思考力・判断力・表現力）、さらには他者と協働して課題を解決していく力が必要となる。このように、本校の教育目標は、これからの時代を生き抜いていかなければならない子どもたちには必要不可欠なものである。

その中でも、特に重要だと考えるのが「主体的に学習に取り組む態度」である。子どもたちが学習に対して主体的であるかどうかは、身に付く学力に大きく関わる。では、どのように主体的な態度を育成することが大切か。子どもたちが「つぶやきたい」「話したい」「考えを書きたい」「発表したい」と感じることができる授業となるように、教師一人ひとりが授業改善に取り組むことこそ重要である。子どもたちが自ら考え、他者と協働的に課題を解決しようとする姿勢を身に付けることで、これから先の未知なる難しい課題に対しても、立ち向かっていくことが可能となる。

課題に対して行動したくなるような授業づくりとより効果的な場面での対話的な学習活動を研究していくことを通して、子どもたちの主体的に学習に取り組む態度を育成し、本校の教育目標である「自ら考え主体的に行動できる児童の育成」を目指していきたい。

(3) 昨年度の研究から

以下に示すのは、過去における本校での研究の取り組みである。

年 度	研究領域	研究主題	委嘱校等
令和3年度	教育課程（学力充実）	自ら考え ともに伸びていく子どもの育成 ～学び合いを通して、「分かる」「できる」 「楽しい」授業をつくる～	
令和4年度	教育課程（学力充実）	自ら考え ともに伸びていく子どもの育成 ～対話を通して、「分かる」「できる」「 楽しい」授業をつくる～	

令和5年度	教育課程（学力充実）	自ら考え ともに伸びていく子どもの育成 ～対話を通して、主体的に学び合う授業をつくる～
-------	------------	--

昨年度は、児童の主体的に学習に取り組む態度の向上を目指し、教科を絞らずに授業改善に取り組み、めあての明確化・対話や少人数での話し合いの工夫・授業の終末の段階での振り返りの充実・「三和中学校区聞き方あいうえお」の実施に取り組んできた。また、同じ学年部で担任外の教員が道徳の授業を行う「ローテーション道徳」にも取り組んできた。教科を絞らずに行うことで、縦の系統を意識して授業改善が行いにくいという反省も出たが、様々な教科を見て学ぶという意味では、教師自身にとってはとても良かったという意見も出た。またローテーション道徳では、自分の担任外のクラスでの授業を行うことで、発問や授業展開などにおいて教師の授業力が試され、自分自身の授業について振り返り、改善する機会となったという意見が多くみられた。

子どもたちも自分の意見を持ち、友達と意見を交流させることで、新たな考えに気が付いたり友達の考えを知るきっかけになったりしたという成果も見られた。一方で、対話の場面での子どもたちのスキル（話すスキル・聞くスキル）の部分に大きな課題を感じたという意見も多くみられた。共感的に話を聞く姿勢や多様な考えを共感的に受け入れる学級の支持的風土などの面での課題と、考えを伝えるだけで終わるのではなく、対話を通して新たな考えを見つけたり、自分たちの考えを深めたりすることができるスキル（伝え方）の面での課題という2つが反省として出された。

また、昨年度の熊本市学力検査では、「基礎基本の定着」「応用問題への対応」「思考力・判断力・表現力の育成」「書く力（表現する力）の育成」などの課題が見受けられた。

したがって、これらの学力テストの結果や児童の実態を考慮し、今年度も児童の主体性を生かした授業づくりに重点をおいて校内研修を進めていく。

3 研究主題について

『自ら考え』とは

つけたい力

主体的に学習に取り組む力

→課題に対して、行動する姿

（つぶやく・考えを書く・発表する）

課題に対して、様々な視点から思考している姿

粘り強く学習に取り組む力（学び続ける力）

→諦めずに調べたり、質問したりしながら、様々な手段を使いながら、粘り強く学習する姿、など

『ともに伸びていく』とは

つけたい力

対話で考えを広げたり、深めたりする力

→共感したり、異なる考えを述べたりしながら、より良いものを求める姿、など

自分の伸び・友達の良さを認める力

→「分からない」を自ら発信でき、学び合う姿
いろいろな考えを素直に受け入れる姿、など

『対話を通して』とは

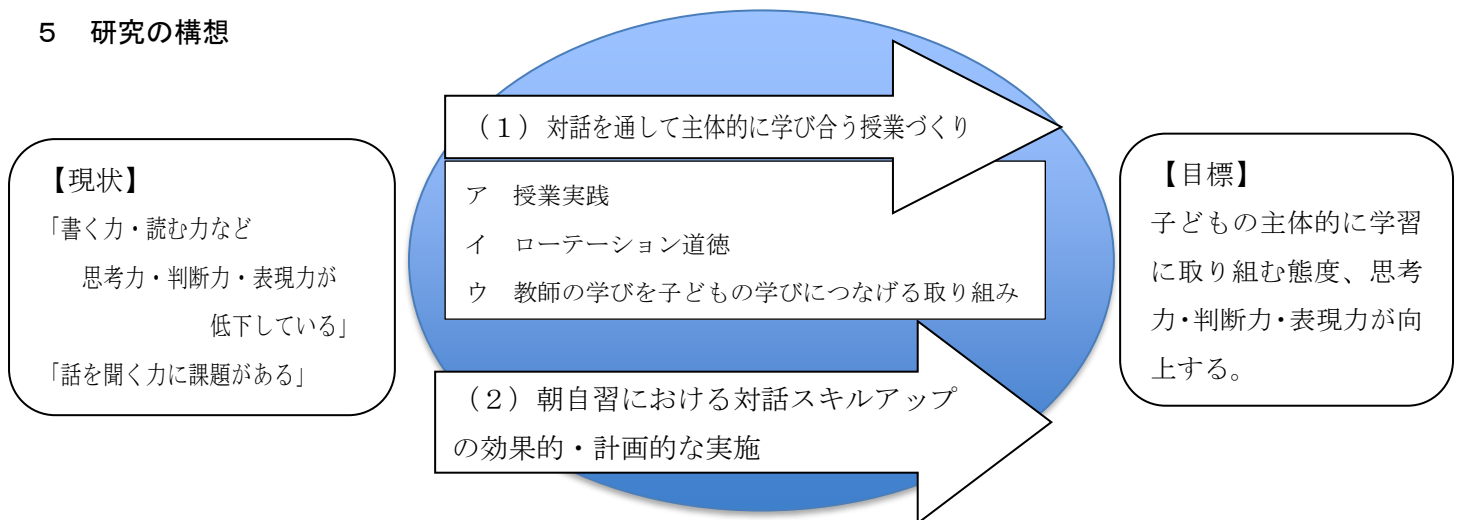
本校における対話の理解は以下の通りとする。

→相手と考えをやりとりすることによって、物事に対する理解が深まったり、新しい発見や豊かな発想が生まれやすくなること（自分自身を更新していく）とする。そのような「対話」する場面を意図的に授業の中に取り入れていく。

4 研究の仮説

授業において、課題に対して行動（つぶやく、考えを書く、発表する）したくなるような対話の場を設定することで、自ら考え、ともに伸びていく子どもが育つだろう。

5 研究の構想



6 研究の視点

本校では、熊本市教育委員会から出されている令和版「学びわくわく熊本市の授業づくり」、先生主導の「教えたい」を子どもの主体の「学びたい」へ～授業をステップアップさせる3C～をよりよい授業を作る大切な視点として、すべての教科で取り入れ実践していく。本校では、主体的に学習に取り組む児童の育成という観点から、3つのポイント①めあて②対話（アウトプット）③振り返りに重点を置き、授業改善に取り組んでいく。子どもが自ら考え、ともに伸びていくためには、『対話のある授業』を実践していくことが大切である。今年度も、効果的な対話を行うためには、どのような手立てが有効かを協議しながら、授業の実践を積み上げていく。また振り返りの時間を確保し、子どもたちが学びを実感したり次時へつなげたりすることができるようにしていく。（授業における振り返りの時間の確保及び活用、シートの活用などの工夫）

7 研究の実際

(1) 対話を通して主体的に学び合う授業づくりについて

ア 小グループによる授業公開・実践報告会（縦のつながり）

今年度もどの教科においても3つのポイント①めあて②対話（アウトプット）③振り返りを意識しながら授業づくりを行っていく。その上で本校は主体的に学習に取り組む態度を育成するという観点から、「対話のある授業」を意識して授業作りを行っていく。小グループによる年2回の授業公開と実践報告会を行うことで、互いに協働しながら授業改善に努めていく。今年度も第2回の小研をローテーション道徳と兼ねる。さらに、グループの実践を全体で共有する時間を設けることで、学校全体での学びを深めていく。

イ ローテーション道徳の実施（横のつながり）

本校では、担任が別のクラスで道徳の授業を行う「ローテーション道徳」に全学年で取り組んでいる。道徳は、発問・対話・振り返りなど、授業を行う上で大切な指導技術が詰め込まれており、道徳の授業で得た知見は他の教科にも派生して応用できるものと考え。今年度も、校内研修の取り組みとしてしっかりと位置づけることで、教員の授業改善を図っていく。今年度も第2回小研をローテーション道徳と兼ねる。

ウ 教師の学びを子どもの学びへつなげる取り組み

令和2年度からワークショップやジグソー学習のスタイルで、教師が協働的に考え、子どもの立場になって学ぶ実践型研修を取り入れている。今年度も、生活科・総合的な学習の時間などを軸としたカリキュラム・マネジメントに取り組み、プレゼン発表等を行うことで教師の学びを子どもの学びへと繋げていきたい。また、授業で使える活動やICTの活用などについて教師が学ぶ場として「放課後学びカフェ」の時間を設定していく。

(2) 朝自習における対話スキルアップの効果的・計画的な実施

今年度は、毎週水曜日を「ハッピータイム」とする。(児童集会、全校集会、読み聞かせなどがない水曜日の朝自習を活用する。)
「決められた話題に対して話す活動」を行う。低学年から取り組むことにより、対話の場面でのスキル(話すスキル・聞くスキル)の向上や共感的に話を聞く姿勢や多様な考えを共感的に受け入れる学級の支持的風土などの対話のための力をつけさせることをねらいとする。(詳細は別紙を参照する。)

また、毎週月曜日の朝自習には、読書や漢字計算のプリントの時間とし、基礎学力向上に繋げる時間とする。

令和6年度校内研修 年間計画

城山小学校研究部

月	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週
4	4日(木)	11日(木)	15日(月)	22日(月)	29日(月)
	城山の教育 研究テーマと 取り組みの提案	児童理解 アレルギー対応	職員会議	運営委員会 (研究推進委員会)	昭和の日
5	6日(月)	13日(月)	20日(月)	29日(月)	
	振替休日	教育相談期間	小研について グループ編成およ び個人の課題設定	心肺蘇生法	
6	3日(月)	10日(月)	17日(月)	24日(月)	
	運営委員会	職員会議	第1回小研事前研 (グループ研)	運営委員会	
7	1日(月)	8日(月)	19日(金)	23日(火)	29日(月)
	小研実施期間 5日まで	第1回 小研振り返り	水保について講和	CityFM水野さん 保護者対応研修	カリキュラム・マネジメント研修 (生活科・総合・体育)
8	1日(木)	5日(月)	12日(月)	21日(水)	26日(月)
			振替休日	ローテーション道徳提案 個人の課題見直し (小研グループ編成)	人権レポート研修
9	2日(月)	9日(月)	16日(月)	23日(月)	30日(月)
	運営委員会	職員会議 教育課程復講	敬老の日	秋分の日	運営委員会
10	7日(月)	14日(月)	21日(月)	28日(月)	
	職員会議 教育課程復講	スポーツの日	第2回小研事前研 (グループ研)	運営委員会	
11	4日(月)	11日(月)	18日(月)	25日(月)	
	振替休日	情報研修 (ロイロ共有ノート)	ローテーション道徳 中間報告会 (グループ研)		
12	2日(月)	9日(月)	16日(月)	23日(月)	30日(月)
			ローテーション道徳 実践交流会		
1	6日(月)	13日(月)	20日(月)	27日(月)	
		成人の日	今年度の個人課題 の振り返りとまとめ	運営委員会	
2	3日(月)	10日(月)	17日(月)	24日(月)	
	職員会議	今年度のまとめ 学力調査の分析 次年度への志向	新入生保護者 説明会	振替休日	
3	3日(月)	10日(月)	17日(月)	24日(月)	
	職員会議			職員会議	